

Q.1

『小学社会』では、「問題解決学習」をどのように実現しているのですか。

A. その1  
「問題解決学習」における「問題」

まず、「問題」という言葉について考えてみましょう。

社会科においては、この言葉には、大きく分けて二つの意味があると思います。一つは、「社会的問題」の意味として使われる場合です。「環境問題」とか、「少子・高齢化の問題」といった使われ方ですね。

もう一つは、一人一人の子どもに寄り添うかたちで、彼らにとって「気になる問題」とか「こだわりたい問題」、「切実な問題」など、個々の子どもの意識にのぼった個性的な「追究問題」の意味として使う場合です。「問題解決学習」での「問題」とは、まさにこの意味での「問題」なのです。

平成23年版『小学社会』を見てみましょう。下の紙面は、3・4年下巻の小単元「なくそう、こわい火事」冒頭の4ページです。

かいとさんは、激しく燃える火事現場の写真を見て、次のような「問題」を抱きました。『小学社会』では、これを「わたしの問題」とよんでいます。

もしも学校で火事がおこったら、だいじょうぶなのだろうか。



ここからこの小単元の学習が始まるのです。かいとさんの「問題」は、続いて市全体へと広がっていきます。

わたしたちの市では、火事はどれくらいおこっているのだろう。



3,4年下 p.62~63

3,4年下 p.64~65

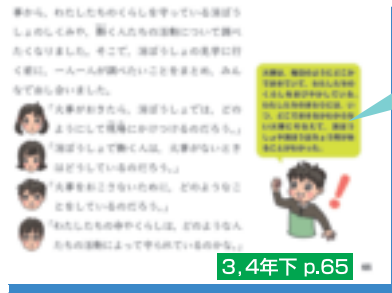
## A. その2 「問題解決学習」における「解決」

次に、「解決」という言葉について考えてみます。

この言葉は、「算数の問題を解く」というように、一般には「結論を出す」「一つの正解・答えを出す」「一件落着させる」というイメージで受け取られることが多いと思います。

しかし、わたしたちは、「未解決の解決」も含むと考えています。つまり、「解決」という場合、必ずしも一つの答えに向かって「追い求める」意味ではなく、むしろ自分自身の内部に向かって「追い究める」意味で使っているのです。

かいとさんは、いくつかの「わたしの問題」を追い究めながら、右のような認識レベルに到達しました。『小学社会』は、これを「わたしの見方・考え方」とよんでいます。学習内容の一定のまとまりごとに設定され、その時点での子どもの社会認識や意味認識を示すものです。それはもちろん「解決」ではありません。次につながる問題を既に含んだものなのです。



火事は、毎日のようにどこかでおきていて、わたしたちの暮らしをおびやかしている。わたしたちのまわりには、いつ、どこでおきるかわからない火事にそなえて、消ぼうしょや消ぼうしや消ぼうしや消ぼうし出しよう所があることがわかった。



## A. その3 「問題解決学習」のねらい

小单元「なくそう、こわい火事」は下のページで締めくくられます。『小学社会』では、このページを「たしかめよう」とよんでいます。この单元で学んだこと、身につけたことを活用して、自分の言葉で再構成したり、話し合ったりして確かめるためのページです。「問題解決」が成し遂げられた場面ということが出来ます。かいとさんは、最後まで「学校」と「火事」にこだわったようです。

問題解決学習の真の目的は、「問題解決」そのものにあるのではなく、「問題解決」を通して子どもの考え方がより一貫性をもってつながっていくようになること、子どもが責任のとれる考え方を育成していくことにあります。これは同時に、新教育課程がめざす「思考力・判断力の育成」に通じるものであると考えます。

### たしかめよう

**消ぼうしよのはたらきを整理する**

かいとさんたちは、消ぼうしよの人たちのさまざまな活動を、目的別にまとめることにしました。

- 火事現場に早く行くためのくふう
  - 長くつぼう火服が、すぐに身につけられるようにならべてある。
  - 24時間、交代して働いている。
  - コンピューターを利用して、火事現場のようすを早くつかむ。
  - 必要などころへすばやくれんらくしたり、火事の大きさによって出動計画を立てたりするしくみをつくっている。
- 火事を消すためのくふう
  - 消ぼう自動車やホースなどをはじめ、消火せんやぼう火水そうのてんけんをしている。
  - 消火や救助のための訓練をしている。
  - インターネットで調べてみると、新しく使われはじめた化学薬品などがあると、その薬品を使っている場所が火事があった場合、どのような方法で消火するのがいいかについて、いつも研究しているようだ。
- 火事をおこさないためのくふう
  - 会社や商店の人たちに、ぼう火のためのこう習会を聞いている。
  - 火さいよぼう運動をおこなって、ぼう火のたいせつさを人々によびかけている。
- 火事によるひきを少なくするためのくふう
  - 消ぼうについて定めた図のきまりをくわしく調べると、住たくに火さいけいぼう器を取りつけることが決められていることがわかった。これは火事によるひきを少なくするためのくふうだと思ふ。
- けがをした人や病氣の人を助けるためのくふう
  - 救急車は、けがした人を運ぶためのせつりや病氣をよぶのていである。
  - 救急車では、救急いそぐまでの間、救急隊員が治療をおこなう。
  - 学校のあちこちにもけがした人を運ぶためのせつりや病氣をよぶのていがある。

3,4年下 p.76～77

### 学校の消ぼうしせつびの目的を考ふる

かいとさんたちは、学校のいろいろな消ぼうしせつびにも、それぞれ目的があると思ひ、校内を調べたときのことを思ひ出しながら話し合いました。

消火器は、火事を消すためのせつびだ。

消火器のたてつけや場所がわかっていて、火事現場ではすぐ使われる。消火器のたてつけや場所がわかっていて、火事現場ではすぐ使われる。

火事がおこったことを早く知ることができた。すばやくひなんできるから、ひきを少なくすることになるね。

ぼう火とびらは、火事にたいしてぼう火水そうや消ぼうしや消ぼうしを準備している。

### A. その1 話し合い活動を重視しました。一言語活動の充実 ①

子どもたちが、社会的事象に対する自分自身の予想や考えを積極的に出し合い、おたがいの意見を聞き合うという場を随所に設定しています。自分の考えを相手に伝え、相手の意見を正しく理解するという力を育成しようという意図によるものです。

**身近な環境問題**

お宮について調べたかいるさんたちは、今日の日本の環境問題について話し合いました。

「国や会社が公害を減らさないように努力をしたので、公害は少なくなったのかな。」

「でも、まだまだ水や空気がよくなっていないところは多いし、環境問題はなくなっていないだよ。」

「自然環境の手よごれのように、わたしたちが気づきずみや、よごれた水が循環できている問題もあるよ。」

「自動車の排気ガスは、環境汚染の原因になんだって。」

「自動車会社では、環境にやさしい自動車を開発しようとしているよ。」

「わたしたち自身が、自分たちの生きを見直す必要があると思うよ。」

5年下 p.84

環境問題に関するデータを3つの円グラフで示しています。左のグラフは「環境問題の種類」を示し、右のグラフは「環境問題の原因」を示し、中央のグラフは「環境問題の対策」を示しています。また、右側には「環境問題の解決策」に関するイラストと説明文が掲載されています。

6年下 p.12

### A. その2 「たしかめよう」で表現力を徹底的に鍛えます。一言語活動の充実 ②

「たしかめよう」は、各小（中）単元末に必ず登場します。このページでは、それまでに身につけた知識や概念を、自分の言葉でもう一度再構成します。自分の見方・考え方が適切なものであるかどうかを、友だちとの話し合いによって互いに多面的にとらえ直し、最も効果的な方法を用いて表現する。この、思考と表現が一体となった学習活動によって表現力が鍛えられ、考える力が育まれていくと考えるのです。

#### たしかめよう 6年上 p.66~67

歴史新聞にまとめて話し合おう

ゆいさんたちは、これまで学習してきたことを歴史新聞にまとめてみました。そして、自分の意見を添えて、友だちと話し合うことにしました。

たしかめよう

ほるかさんたちは、できあがったみんなの地図を見て、自分たちのまちがど

んなふうなのか、またんげんしたことりかえりながら、話し合うことにしました。

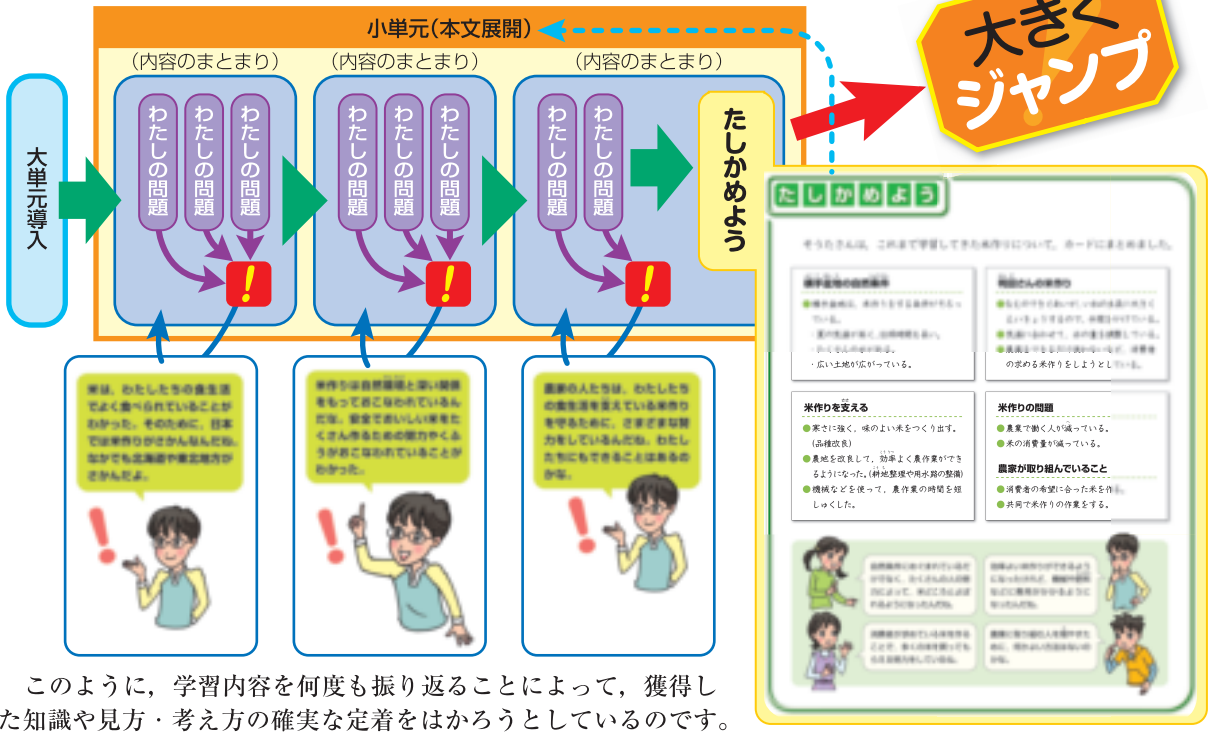
3・4年上 p.20~21

このページには、歴史新聞の作成と「たしかめよう」の活動が描かれています。左側には「歴史新聞にまとめて話し合おう」という活動があり、右側には「たしかめよう」の活動が描かれています。中央には、子どもたちが作成した地図が示されており、地図には様々な建物や施設が描かれています。また、地図の右下には、色や記号で表された建物の説明が記載されています。



### A. その1 基礎的・基本的な知識の習得について

『小学社会』では、一つの小単元が二重の「振り返り」によって構造化されています。「問題解決学習」の質問への回答でも登場しましたが、一つは「**わたしの見方・考え方**」、もう一つは「**たしかめよう**」です。これを図式化すると次のようになります。



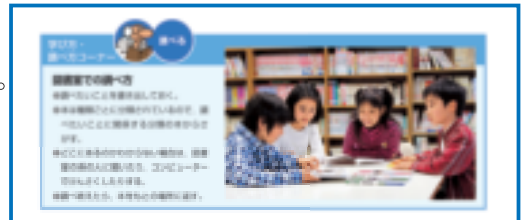
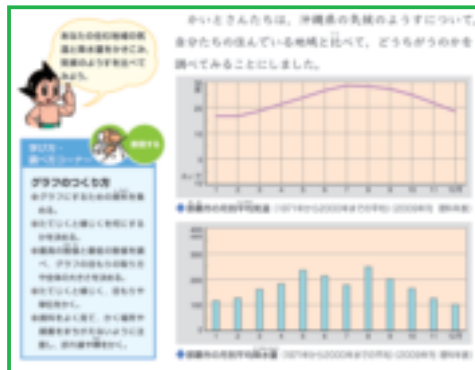
このように、学習内容を何度も振り返ることによって、獲得した知識や見方・考え方の確実な定着をはかろうとしているのです。

### A. その2 基礎的・基本的な学習技能の習得について

調べたり、読み取ったり、表現したりする学習技能についてはどうでしょうか。

『小学社会』では、平成17年版から、「**学び方・調べ方コーナー**」を設定して、社会科で求められる技能の定着を図ってきました。今回の改訂では、このコーナーを大幅に拡張・充実させています。

「学び方・調べ方コーナー」には、三つの項目があります。「調べる」「読み取る」「表現する」の三つです。これらのコーナーを、全巻を通して、発達段階に配慮しながら系統的に配列しているのです。



### A. 発展的な学習の例として、「大きくジャンプ」のページを特設しました。

「たしかめよう」の次のページに「大きくジャンプ」というページを設定しています。かならずしも学習指導要領の内容にとらわれることなく、多様な教材を例示し、「個に応じた指導」に対応しようとするページです。

ここでは、各単元での子どもの問題意識の質的な広がりや深まりをもとに、これまでに身につけた知識や技能を活用しながら探究していくという一人学習の例として、子どもの探究する姿を紙面で構造的に示しています。

なお、上記のような趣旨であることから、このページには指導時間を配当していません。



**A.** その1  
一つ一つの紙面要素の性格付けを際立たせ、必要なときに、必要な情報が得られるようにしています。

平成 23 年版の『小学社会』には、既にご紹介した「わたしの問題」「わたしの見方・考え方」「学び方・調べ方コーナー」のほかに、次のようなものがあります。

「資料から考えよう」(アトム) …写真や絵、地図やグラフ、年表などの基礎的な資料を読み取るための見方や手立てを提示しました。

「やってみよう」(ウラン) …学習や生活の基盤となる知識をくりかえし使うように示唆したり、学習活動に関連して、本文が示す活動以外にチャレンジしてみたい活動や作業を示唆したりしています。

このように、各キャラクターの担う役割を明確にすることで、例えばアトムが登場していれば、「あっ、資料への目のつけどころを教えてくれているんだな。」ということがわかるのです。

6年上 p.42

5年下 p.89

マクロ	中国、韓国、インドネシア
中マクロ	オーストラリア、ロシア
ミクロ	タイ、インドネシア、ベトナム
ナノ	ロシア、オーストラリア
ナノナノ	中国
ナノ	オーストラリア、ロシア

5年上 p.89

6年下 p.67

**A.** その2  
ワイドな判型と、原則見開き2ページ1時間の構成

AB判(通常のB5判よりも左右が約3cm広い)というワイドな判型を最大限に生かし、子どもの興味・関心を喚起し、心情に訴える写真やイラストの充実を図りました。

6年上 p.12~13

1 日本の国土と人々の暮らし

5年上 p.2~3

また、おおよそ見開き2ページで1時間の授業という想定で紙面が構成されており、指導計画が立てやすくなっています。